

劇的な裸身



マインズ女優軍団in銭湯



初撮り下ろし



森詩絵里

波乗り弁護士



あまつまりな

山崎真実 W袋と全裸でアハハ

夏の性生活報告 「あ快感!女性器も震えた!」

2人の名医がタッグで監修



高血圧

×

脊柱管狭窄症

W

で良くなる体操

大谷翔平「三刀流」再生計画

週刊

ラグビー日本代表団ラ名鑑

仲秋のスーパープレミアム合併号



どうぶつ間違い探し

カラオケオトナ渋谷の歩き方



大ヒットドラマ『VIVANT』友情と商魂

人物大研究



阪神・岡田は「三度の恥辱」で名將になった

「スマホ4社戦争」楽天主木谷は本当にヤバいのか?



スツパ抜き!! 維新新人議員が文通費で爆買い三昧!

64万円シュレッダーから布団乾燥機まで

新局面

2023 Sep. 9.15/22 特別価格550円

遺言書の作成 不動産の名義変更 暦年贈与 タワマン節税

大ピンチずかん

2024年新制度の「落とし穴」を完全網羅

雪だるま式に資産が増える 憧れの配当貴族になるための特選銘柄

27

反日中国が報じない陰湿攻撃

岸田は「外交完敗」で打つ手なし / 食卓を汚染する中国水産物



イラスト解説でわかりやすい!

海外投資家も熱視線

16年
買い

にわたって「減配なし」の企業ほか、
続けると効果がバツグンに



雪だるま式

に資産が増える

「配当貴族」

特選銘柄 27

三菱UFJ、伊藤忠、オリックスから
世界トップシェアを誇る、独自技術企業まで
配当が増え続ける、企業はここだ！

投資の世界ではこうした累進配当を続ける企業を「配当貴族」と呼ぶ。米国では配当貴族銘柄をまとめた指数もあり、S&P 500（米国を代表する500社の株価指数）の構成銘柄のうち25年以上連続して増配している優良大型株のパフォーマンスを評価する「S&P 500配当貴族指数」がよく知られている。

今回は日本版「配当貴族」と期待できる銘柄をプロ3人が厳選、別表にまとめた。こうした銘柄の配当で暮らしを豊かにする「配当貴族生活」を目指したい。

前出・戸松氏は累進配当の銘柄を選ぶ際の注意点として、「配当利回りの高さだけに目を奪われ

「配当利回り」だけ見るのはダメ

「利回りが高い」と語る。ことにはないが、目先の数字にとらわれるのではなく、長期的に配当が増えていくことに目を向けてほしい。そのためには、増収増益基調で業績がしっかりしていて、かつ独自の強みを持つ企業に注目すべきです」

などは、今後も持続的な増配が見込めます」

「累進配当」とは

投資の世界では、長期間にわたって毎年配当を増やす企業を「配当貴族」と呼ぶ。そうした企業の株式を保有し続けることで配当金収入を増やし、その収入を再び投資へ。そうして雪だるま式に資産を増やす「配当貴族生活」を送るために、買うべき銘柄はどれか。

企業にとって最適な配当政策とされます。投資家にとってはリスクが少なく、配当金の増加による収益性の向上が最大のメリット。長期的には企業の成長と株価上昇につながる可能性があり、持続可能なリターンが期待できる」

〈日本株、複利効果の光明 累進配当、長期投資 呼ぶ〉
8月28日付の日本経済新聞には、こんな見出しが躍った。保有する株の配当金を再投資して「複利効果」を高めることを狙った長期マネーが株式市場に流入している——といった内容だ。

今、日本企業では配当などで株主に報いる「株主還元」の動きが強まっている。グローバルリンククアドバイザーズ代表の戸松信博氏が言う。「これまで日本企業は利益が拡大しても株主還元をあまりせず内部留保を溜め続けてきたが、今年

に入ってから増配や自社株買いなどの株主還元策を打ち出す企業が増えていきます。そうした株主還元策を評価する海外の機関投資家の注目も高まっています」
とりわけ注目されるのが冒頭の日経の記事にもあった「累進配当」だ。馴染みがない表現と思う人もいるかもしれないが、「配当」が「累進」していく、つまりは長年にわたって配当金の水準を維持、または増額していく企業側の取り組みを指す。マーケットバンク代表の岡山憲史氏が説明する。「累進配当は長期的な観点で株主の利益を追求す

企業名(証券コード)	株価	配当利回り	選考理由
ローランド ディー・ジー (6789)	3400円	3.97%	広告・看板用インクジェットプリンターで世界トップ。歯の詰め物や被せ物の3D切削加工機でも高いシェア
伯東 (7433)	5000円	5.60%	半導体専門商社。クルマなど車載デバイス、光デバイスのパワー半導体の業績が好調
パンパシフィック・インターナショナルホールディングス (7532)	2891.5円	0.73%	ドン・キホーテを主力とする。国内はインバウンド需要が回復、グアムなど海外展開も積極的に進める。「21期連続増配」と手堅い
ユニテッドアローズ (7606)	2109円	2.61%	衣料品販売額で国内第8位のアパレル企業。株主優待にも定評がある
伊藤忠商事 (8001)	5467円	2.93%	繊維、食料など生活消費関連に強みを持ち、非資源分野で収益力トップ。傘下にファミリーマートも
住友商事 (8053)	2932円	4.09%	上位総合商社。住友グループの中核企業で、金属取引や自動車などに実績
三菱商事 (8058)	6954円	2.88%	総合商社の雄。エネルギー取引に強みを持つ。8期連続の増配を発表。年間配当額は8年で4倍
稲畑産業 (8098)	3195円	3.76%	住友化学系の化学商社大手。電子材料や合成樹脂に強みを持つ。30年までに海外売上高比率を70%以上まで引き上げることを目標としている
三菱UFJフィナンシャル・グループ (8306)	1155.5円	3.55%	株式指標が割安。インフレが資金需要を喚起。金利の上昇で利ざや拡大が見込め、銀行の収益は上がる
山陰合同銀行 (8381)	898円	4.01%	山陰両県の指定金融機関で、山陽でも法人取引を拡大。24年3月期より累進配当を導入
オリックス (8591)	2655円	3.54%	リースを核に保険、信託など金融業務を多角展開。株主優待の充実に加え、グローバルでのビジネス拡大が期待される
ニッコンホールディングス (9072)	3304円	3.03%	自動車業界や住宅業界を取引パートナーとする物流サービス会社。梱包事業の収益性も高い
KDDI (9433)	4259円	3.29%	安定した収益と配当が狙える。楽天モバイルとのローミング収入など事業も多角化している

※証券コード順に並べた。すべて東証プライム市場上場企業。株価と配当利回りは8月29日終値。単元株数は100株。銘柄は岡山憲史氏、戸松信博氏、藤井英敏氏が選定

伊藤忠商事や住友商事なども株主還元を積極的なことが魅力と言え、藤井氏は、世界的に需要が高まる半導体の専門商社・伯東にも注目する。「自動車向けの車載デバイスや光デバイスのパワー半導体の業績が好調で、まだまだ成長が望める」国際情勢が不透明なか今後の業績の見通しは難しい。戸松氏は国内外で独自の強みを発揮しており、将来的にも安定的な成長が見込まれる銘柄を推奨する。

「売り上げが10年で2倍以上に拡大したダイキン工業、世界最大のガラス素材メーカーのAGC、10期以上にわたって累進配当しているアステラス製薬や30年減配なしのフコクなども見逃せないところですよ」

配当額の上昇は企業の株価上昇にもつながる。配当で資産を増やす夢の「配当貴族生活」を目指すには、今が判断の時だ。

企業名(証券コード)	株価	配当利回り	選考理由
安藤ハザマ (1719)	1174円	5.11%	中期経営計画で株主還元率70%を目指し、株主還元を積極的な姿勢を見せている
中電工 (1941)	2371円	4.39%	中国電力系の電気工事会社。24年3月期は黒字にV字回復の見通し。脱コロナで追い風が吹いている
アルトナー (2163)	1700円	3.77%	技術者派遣事業の老舗企業。リーマンショック後、社内制度を改革し、9期連続増収増益
マツキヨココカラ &カンパニー (3088)	8550円	1.18%	売上高約1兆円を誇る日本最大のドラッグストア。26年3月期にはグループ売上高1.5兆円を目指す
UBE (4208)	2440.5円	4.10%	化学・医薬・機械と多角的。今後はこれまでの積極的な設備投資が業績に反映される見込み
アステラス製薬 (4503)	2196.5円	3.19%	国内4大製薬の1つ。海外売上高比率は約80%。世界製薬会社売上ランキング23位。10期以上連続で増配
CAC Holdings (4725)	1697円	4.71%	ITコンサルティングサービス企業。23年度よりDOE(株主資本配当率) 5%を目標に設定
ユー・エス・エス (4732)	2549.5円	2.72%	インターネットや衛星TV回線による中古車オークションで最大手。レーン増設など事業効率化が進む
ENEOSホールディングス (5020)	538円	4.09%	洋上風力など次世代の再生可能エネルギーにも注力。約5万円で1単元を購入できる点が個人投資家に人気
フコク (5185)	1429円	3.85%	ワイパーブレードラバーや防振製品などを展開する工業用ゴム製品メーカー。30年以上「減配なし」
AGC (5201)	5061円	4.15%	世界最大手のガラス素材メーカー。株主還元も前向きで、中期経営計画では配当性向40%を目安に
横河ブリッジホールディングス (5911)	2734円	3.29%	鋼鉄製橋梁のバイオニア。老朽化した高速道路や新幹線橋梁などの大規模修繕・大規模改修の需要増が予想される
ダイキン工業 (6367)	2万5275円	0.95%	空調機の製造・販売大手。24年3月期には売上高4兆円を突破する見通し。10年以上「累進配当」が続いている
イーグル工業 (6486)	1696円	4.13%	特殊バルブ大手。売上高は2期連続で増収、営業利益も2期連続の増益で業績好調

日経平均株価が今年に入ってバブル崩壊後の高値をつけた背景には、日本株売りの約7割を占める海外投資家の影響が大きいことが挙げられる。「米著名投資家のウォーレン・バフェット氏をはじめ海外の機関投資家がこぞって来日。不安定な海外市場に対して、安定して割安な日本株に注目している」(戸松氏)

岡山氏は、バフェット氏が買い増していることで知られる商社株も推す。「三菱商事が総額3000億円を上限とする自社株買いを発表したほか、

将来の成長を見据えて

「元・グループは株主還元の充実に努め、配当利回りが高いのに割安なのが魅力。地銀でも山陰合同銀行は要注目。金融業務を多角展開するオリックスは株主優待の充実なども評価したい」